

実施体制及び国内外のネットワーク

提案主体名	野沢温泉旅館ホテル事業協同組合
提案プロジェクト名	野沢温泉スマートビレッジ”NIPPON”滞在プロジェクト
① 実施体制(構成主体と役割分担)	※本欄には1000文字以内の要約を記載願います。詳細資料は参考資料(様式自由)として添付してください。 大きな枠組みとしての実施体制として官民・産学など多様な立場の団体や専門知識を有する有識者で構成される協議会を設立し実施を進めて行く。国・県等との連絡調整のために野沢温泉村としての参加は必須であり、主に民間団体や個人への連絡調整として野沢温泉旅館ホテル事業協同組合(以下旅館組合と表記)が主体となって協議会のスムーズな運営を図る。協議会が事業を進める中で、各事業毎に必要とされる専門知識や携わるべき団体等は変わってくるので、協議会内には小委員会や集中して協議をすすめるたワーキンググループも必要となる。適時必要な時に必要な形で小委員会の設置やワーキンググループの設置ができ、それらが有機的に機能し全体の事業が展開される体制を整える。そのためには、いわゆる協議会の会長という立場での全体を俯瞰する者とは別に、外部から招聘する広い視野を持ったコーディネーターも必要となる。この立場には観光・地域活性コンサルタントの経験と知識を持つコーディネーター兼アドバイザーとなれる立場の者を置き、全体の方向性と各事業毎の整合性などを図っていく。
② 実施体制(プロジェクトマネジメントのための具体的な方法論)	※本欄には1000文字以内の要約を記載願います。詳細資料は参考資料(様式自由)として添付してください。 現在、野沢温泉村では「まちづくり」のための協議会が設置され各種の検討を行っている。また観光の振興のための審議会も設置され各種の検討を行っている。旅館組合としても今後の地域活性化や温泉街を含めた温泉観光の在り方進むべき方向性を模索している。これら様々な立場で検討協議が進められている「村を良くするための議論」をまずは協議会でテーブルの上に並べ、比較検討し、総合的な視野で整合性をとらいながら整理していくことからプロジェクトの効果的な計画立案が始まる。既存の個別なテーマについての協議会が引き続き進めるべき検討事項や、むしろ本プロジェクトに統合あるいは合同すべき事項もあるかもしれない。それらは適時判断をしながら村内にある協議会をむしろ活かしながら本プロジェクトの協議会を運営していく。
③ 国内外のネットワーク(国内外のベストプラクティスの相互交流のための具体的な方法論)	※本欄には1000文字以内の要約を記載願います。詳細資料は参考資料(様式自由)として添付してください。 今では全国でも野沢温泉村でしか残っていない自治組織「惣」を研究している社会学・民俗学の学者、ボーリングをしない自噴での形で温泉が提供される温泉の優位性や特性を科学的に研究する科学者など、野沢温泉をフィールドとしている研究者は多い。これら研究本プロジェクトに必要な研究者を紹介あるいは参加していただき協議会への参加あるいはアドバイザーとして携わっていただく。
④ 国内外のネットワーク(国内外の都市・地域との連携を強化するための具体的な方法論)	※本欄には1000文字以内の要約を記載願います。詳細資料は参考資料(様式自由)として添付してください。 野沢温泉村はオーストラリアのサンアントン村と姉妹村として30年を越す交流実績がある。このネットワークを活かして海外への情報発信・情報収集を行う。野沢温泉スキー場はインバウンドへの取り組みが進み、近年オーストラリアを中心として多くの外客の誘致が出来これに伴い長野県とともにオーストラリアでのスキー関連の見本市やイベント、商談会に毎年参加しているので、オーストラリア観光関係者との連絡調整も可能。 国内では、東京都稲城市立の全小中学校が、小学校6年生では夏に、中学1年生では冬に、野沢温泉において宿泊を伴う体験学習を続けている。稲城市の教育委員会そして各学校とは受入地である野沢温泉で実地踏査や体験学習の内容について協議し、送り手の稲城市教育委員会へも実行委員会が出向き協議をする場を設定している。このような相互での行き来と内容の再確認は毎年行われ、意思の疎通はできている、このネットワークを活かして生物多様性の体験学習エリアの設定などについても連携を深めて行く。

※別紙様式3は、可能な範囲内でご提案願います。